

# 折り紙

2012SE120 小室雄基

指導教員：杉浦洋

## 1 はじめに

平らな紙に滑らかな曲線を書きそれに沿って折ると、曲線とそれを境界として接続する滑らかな2曲面が空間に立ち上がる。本研究ではこの様な空間図形を「折り紙」と称し、その数学的な性質を調べる。尾関 [1] の折り紙理論と設計法を整備し、3D プリンタで作品を造形する。

## 2 柱面

柱面 (図 1) は平らな紙を曲げてできる曲面 (可展面) の一種であり、特定の平行線群 (母線) の平行性を保存している [2]。平行線群の単位方向ベクトル  $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^3$ ,  $\|\mathbf{a}\| = 1$  を母線ベクトルと言う。柱面  $A$  は

$$A: \mathbf{x} = \mathbf{f}(s) + t\mathbf{a} \in \mathbb{R}^3 \quad (s, t \in \mathbb{R})$$

$$C: \mathbf{x} = \mathbf{f}(s) \in \mathbb{R}^3 \quad (s \in \mathbb{R})$$

とパラメタ表示される。空間曲線  $C$  は準線と呼ばれる。

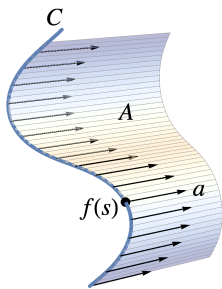


図 1 柱面

### 2.1 共通準線を折れ線とした柱面折り紙

柱面折り紙の展開図は、共通準線  $\bar{C}: \bar{\mathbf{x}} = \bar{\mathbf{f}}(s) \in \mathbb{R}^2$  を平面を 2 柱面  $\bar{A}$ ,  $\bar{B}$  に分割したものである。展開図 (図 2) のパラメタ表示を、

$$\bar{A}: \bar{\mathbf{x}} = \bar{\mathbf{f}}(s) + t\bar{\mathbf{a}},$$

$$\bar{B}: \bar{\mathbf{x}} = \bar{\mathbf{f}}(s) + t\bar{\mathbf{b}},$$

対応する折り紙のパラメタ表示を、

$$A: \mathbf{x} = \mathbf{f}(s) + t\mathbf{a},$$

$$B: \mathbf{x} = \mathbf{f}(s) + t\mathbf{b}$$

とする。図 3 には、折れ目  $C$  を稜線として折る山折を示す。 $C$  を谷線として折る谷折もある。

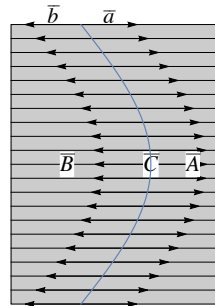


図 2 展開図

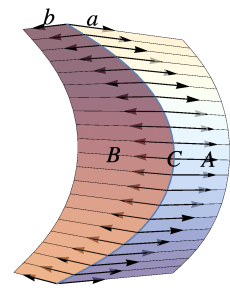


図 3 折り紙 (山折)

## 3 折り紙の空間形状の決定

展開図を決定する母線ベクトル  $\bar{\mathbf{a}}$ ,  $\bar{\mathbf{b}}$ , 準線関数  $\bar{\mathbf{f}}(s)$  と、折り方を指示する母線ベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ , および山折・谷折の指定、から、折上がった折り紙の空間形状を決定することが、本論文の理論的な主題である。

まず、展開図の点  $\bar{\mathbf{f}}(s)$  の近傍 (図 4) と、折り紙の点  $\mathbf{f}(s)$  の近傍 (図 5) の局所的な対応を見る。図で

$$\bar{\mathbf{d}} = \frac{\dot{\bar{\mathbf{f}}}(s)}{\|\dot{\bar{\mathbf{f}}}(s)\|}, \quad \mathbf{d} = \frac{\dot{\mathbf{f}}(s)}{\|\dot{\mathbf{f}}(s)\|},$$

はそれぞれ、点  $\bar{\mathbf{f}}(s)$  における  $\bar{C}$  の単位接線ベクトル、点  $\mathbf{f}(s)$  における  $C$  の単位接線ベクトル、である。

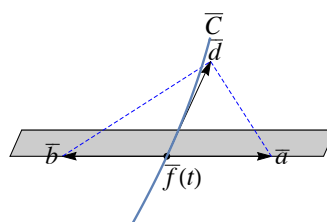


図 4 展開図

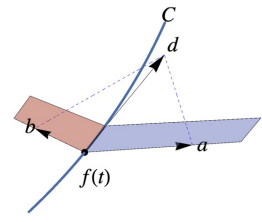


図 5 折り紙 (山折)

展開図でベクトル  $\bar{\mathbf{d}}$  で仕切られたリボンは、ベクトル  $\bar{\mathbf{d}}$  で折ったリボンと対応する。 $\bar{\mathbf{a}}$ ,  $\bar{\mathbf{d}}$ ,  $\bar{\mathbf{b}}$  と  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{d}$ ,  $\mathbf{b}$  が方向ベクトルであることを考慮すると、座標原点を  $\bar{\mathbf{o}} \in \mathbb{R}^2$ ,  $\mathbf{o} \in \mathbb{R}^3$  とし、展開図上の四角形  $\bar{\mathbf{o}}\bar{\mathbf{a}}\bar{\mathbf{d}}\bar{\mathbf{b}}$  をベクトル  $\bar{\mathbf{d}}$  で折れば折り紙上の四角形  $\mathbf{o}\mathbf{a}\mathbf{d}\mathbf{b}$  となる。

ゆえに、山折・谷折を決めれば、3次元ベクトル  $\mathbf{d}$  が一意に決まる。

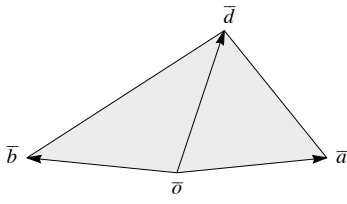


図6 展開図

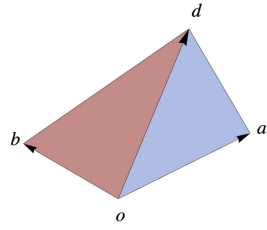


図7 折り紙 (山折)

### 3.1 Orid 関数

2次元単位ベクトル  $\bar{a}$ ,  $\bar{b}$ ,  $\bar{d}$  と3次元単位ベクトル  $a$ ,  $b$ ,  $d$  の関係を,

$$d = \text{Orid}(\bar{a}, \bar{b}, \bar{d}, a, b, y)$$

で表す.  $y$  は山折 ( $y = 1$ ), 谷折 ( $y = -1$ ) を指示するフラグである. 幾何学的な考察により, Orid 関数の出力  $d$  に対する, 次の簡単な計算法を提案した.

$$\begin{aligned} c &= \frac{a \times b}{\|a \times b\|}; \\ s &= \frac{(\bar{a}, \bar{d}) - (a, b)(\bar{b}, \bar{d})}{1 - (a, b)^2}; \\ t &= \frac{(\bar{b}, \bar{d}) - (a, b)(\bar{a}, \bar{d})}{1 - (a, b)^2}; \\ u &= y\sqrt{1 - s^2 - t^2 - 2st(\bar{a}, \bar{b})}; \\ d &= sa + tb + uc; \end{aligned}$$

この計算法では, ベクトル  $d$  を3次元基底  $a$ ,  $b$ ,  $c$  で展開している.  $s$ ,  $t$ ,  $u$  は展開係数である.

### 3.2 $f(s)$ の決定

定義より,

$$\begin{aligned} \frac{\dot{f}(s)}{\|\dot{f}(s)\|} &= d = \text{Orid}(\bar{a}, \bar{b}, \bar{d}, a, b, y) \\ &= \text{Orid}\left(\bar{a}, \bar{b}, \frac{\dot{f}(s)}{\|\dot{f}(s)\|}, a, b, y\right). \end{aligned}$$

展開図と折り紙で準線の長さは変わらないので  $\|\dot{f}(s)\| = \|\dot{f}(s)\|$ . ゆえに, 両辺に  $\|\dot{f}(s)\|$  を掛けて,

$$\dot{f}(s) = \|\dot{f}(s)\| \text{Orid}\left(\bar{a}, \bar{b}, \frac{\dot{f}(s)}{\|\dot{f}(s)\|}, a, b, y\right).$$

右辺は全て既知である. これを積分して,

$$f(s) = p + \int_0^s \|\dot{f}(t)\| \text{Orid}\left(\bar{a}, \bar{b}, \frac{\dot{f}(t)}{\|\dot{f}(t)\|}, a, b, y\right) dt \quad (1)$$

である. 初期点  $p = f(0) \in \mathbb{R}^3$  は積分定数として任意に取れる.

## 4 柱面で構成された折り紙作品

展開図で準線関数  $\bar{f}(s) = (\frac{1}{4} \sin \pi s, s)$  ( $0 \leq s \leq 5$ ), 母線ベクトル  $\bar{a} = (1, 0)$ ,  $\bar{b} = (-1, 0)$  とし, 折り紙の母線ベクトル  $a = (1, 0, 0)$ ,  $b = (0, 1, 0)$ , 折り紙の始点  $p = f(0) = (0, 0, 0)$  とし, 山折を指定する. このとき, 式(1)を計算すると, 折り紙の準線関数として,

$$f(s) = \left( \frac{\sin(\pi s)}{4}, \frac{-\sin(\pi s)}{4}, \frac{\sqrt{16 - \pi^2}}{4\pi} E(\pi s | m) \right)$$

が得られた. ここで,  $m = \pi^2 / (\pi^2 - 16)$ ,  $E(\varphi | m)$  は  $m$  をパラメタとする第2種不完全楕円積分である.

これにより,  $[-1/2, 1/2] \times [-5, 5]$  サイズの長方形に描かれた基本展開図と折り紙を図4, 9に示す.



図8 基本展開図



図9 折り紙

基本展開図を  $y$  軸対称移動と平行移動で4つ並べた展開図と折り紙を図10, 11に示す.

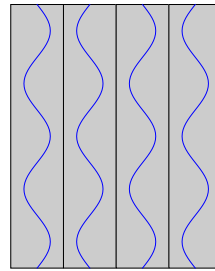


図10 展開図

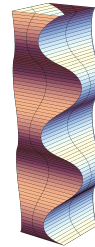


図11 折り紙

## 5 おわりに

本研究では, 展開図に滑らかな曲線で折線を描いたとき, 3次元空間に現れる折り紙柱面を計算する方法を考案した. この方法は展開図を折り上げた作品を, 予めコンピュータのディスプレイ上で見ることを可能とする. そして, 3Dプリンタで正確な立体形状を得ることができる.

### 参考文献

- [1] 尾関勝史:「折り紙により形成される曲面の研究」, 南山大学理工学部システム数理学科卒業論文
- [2] 梅原雅顕, 山田光太郎:「曲線と曲面」, 裳華房, 2015